

# 役に立つ葬儀の話 Vol.64

## 【葬儀での服装】

### 【訃報を受けて弔問】

近い親戚・故人や遺族と親しい関係の場合、できるだけ早くお悔やみに駆けつけるのがエチケットとされています。この場合の服装は平服のままで構いません。外出先や勤務先などで訃報を受け取るものの取り敢えず、すぐに駆け付けたという意味合いもあります。(派手な服装はNG・装飾品は外す)

### 【通夜での弔問】

遺族や近い親戚は、なるべく喪服が良いとされています。一般の方は、平服でも構いませんが、なるべく地味な色柄のものを用い、男性は「ネクタイ・靴・靴下」は黒、ワイシャツは白です。

女性は地味な無地の洋服・黒の靴が望ましいです。装飾品も「結婚指輪」以外は「真珠のアクセサリ」だけ例外として、認められています。

### 【葬儀・告別式参列】

男性の正式な洋装喪服は「モーニングコート」ですが、黒の背広(礼服)が一般的です。他に「濃紺・ダークグレー」など、黒に近い背広に喪章を左腕に巻いて、参列しても構いません。女性の和装喪服では、黒羽二重または縮緬(ちりめん)の紋付に黒の丸帯を用いています。長襦袢は白、帯あげ・帯しめは黒。足袋は白で草履は黒です。「夏」は、黒の絹の紋付に黒の丸帯、長襦袢は絹か麻の白を用います。(近年、和装喪服で参列する方は遺族でもほとんど見受けられません。)

女性の洋装喪服では、格式高い儀式や冠婚葬祭に出席する正装は黒の「アフタヌーン・ドレス」とされていますが、ほとんどの方は「ワンピース」「スーツ」の黒で、一般的に「フォーマル」と言われているものを着用します。男性と違い、ブラウスを用いる場合は白ではなく黒となります。香水は香りの強いものは避けましょう。ネイルをしているのであれば、「落とす」か「黒い手袋」で隠します。ストッキングは薄い黒がよいでしょう。

### 【喪服の歴史】

「日本書紀」「万葉集」には、白無地の喪服とあります。白は潔白・清浄を意味していて、穢れを取り除く色だと考えられていました。仏教の定着と共に、弔いの日の悲しみには、地味で沈んだ色の方が似つかわしいと考えられ、奈良時代には中国の唐の喪に「皇帝は錫衰を着る」になって、天皇が「錫紵」を着用したのをきっかけに、浅黒色の喪服が広まりましたが、唐の皇帝の喪服は「白の麻布」で、金属の錫(すず)の薄黒色と勘違いしたらしいです。平安時代になると鈍色を着る様になり、これがだんだん黒一色になったと言われています。室町時代の喪服は「白」が復活したり、明治になって「黒」になったりと、白と黒を繰り返した歴史があります。

令和の時代、儀礼文化も色々なスタイルに変化し、「生前葬」「お別れ会」など白や黒に限らず、平服で気軽に参列する様になるのかも知れません。



小番英之

# スタッフコラム

## ～葬儀の服装あるある～

### 【其の一 靴裏の『はがれん坊将軍』の巻】

普段はかないフォーマル系の靴でよく起こる現象です。靴の表面には目がいきやすいので汚れていたら磨いたりすると思います。しかし問題が起こるのは靴裏です。ここには注意がいく方は少ないようで、普段履いていない為ゴムが朽ちてしまいはがれ落ちてしまうという現象をよく見かけます。はがれ落ちた靴底の大きさは様々です。小さいものでは数ミリ程度、大きいものになると5cm以上の物やかかとの部分そのまま落ちて落ちていることも。靴底修繕用の接着剤は台館に常備していますが、突然靴底がかけると怪我をする可能性もあります。おでかけになる前に今一度靴底にも注意をはらってみてください。



### 【其の二 礼服の『襟ザベス』の巻】

葬儀にかかわらず普段スーツを着ているときにも起こりうる現象です。礼服(スーツ)の襟の部分には塵物が潜んでいます。通夜、葬儀と急なこともあり焦ってしまうでしょう。襟が立ったまま、あるいは捻じれが生じてしまったまま参列されている方がいらっしゃいます。これは当社スタッフの間でもおこってしまう現象です。急いでいる時には特に起こりやすく、出かける前には鏡の前でのチェックをおすすめします。

### 【其の三 礼服のポケット『ひょっこりはん』の巻】

礼服のポケットの蓋を出すのか? 出さないのか? という現象です。言われるまで蓋の存在自体気にかけていなかったのも、そもそも無くてもよいのではと思っていたのですが、蓋はフラップと呼ばれ砂塵や雨よけの為に付いているそうです。そういった意味では室内では蓋をしまって室外では蓋を出しておくことが正解です。フォーマルスーツには元々蓋が付いていないことが多いです。普段は出してもかまわないのですが、冠婚葬祭などフォーマルな場では出しておくことがマナーです。

知っているようで知らない葬儀の服装あるある。まだまだ沢山ありますが、同じ号の役に立つ葬儀の話でもふれていますのでそちらもご一読ください。



伊藤直樹

# はなだより～仏花の選び方～

仏様や仏壇に供えるお花を仏花(ぶっか)と呼びます。その意味は主に二つあると言われています。一つは故人を想う気持ちを花で表すというものです。故人の好きだった花や伝えたい花言葉をもつ花を供えて故人をしのぶためとも言われています。二つ目は仏様を敬い修行の誓いを立てるといいます。辛い環境でも耐えて花を咲かせる姿が修行をする人間の姿を彷彿とさせることから、このように考えられる様になったと言われています。では、仏壇にはどの様な花を供えるとういでしょうか。選び方をご紹介します。

### ①長持ちする花を選ぶ

ピンポン菊、カーネーションなど

### ②色で選ぶ

- 中国の五行説に当てはまる色など所説あるようです。
- ・六金色…青、黄、赤、白、淡紅に五色の混合色(輝き)
- ・五色…青、黄、赤、白、黒(紫)

### ③とげや毒のないもの、香りの強いものを選ぶ

…などがあります。さらに、法要や命日は華やかに『ゆり、トルコ桔梗』などを、お正月には『松、南天』を、お盆には『はほづき』等をお供えすると良いでしょう。仏壇に供える花に大切な人への想いを馳せて…。



フラワースペースデザイン部では、仏花はもちろん、お誕生日や記念日、開店祝いや送別会等、様々なシーンに合わせた花束やアレンジメントを承っております。大切なあなたの想いを伝えるお花をお作り致します。お気軽にお問い合わせください。フラワースペースデザイン部 0897-53-8788

## 業績拡大につき

# ドリーマー社員大募集!!

お仕事をお考えの方!! 私たちと一緒に働きましょう!! 未経験からはじめたスタッフがほとんどです。知識経験がなくてもマンツーマン指導でしっかりと仕事を覚えることが出来る環境です。ご連絡をお待ちしております。

### 【正社員】

葬祭部 基本給 187,000円～293,000円(その他諸手当あり)  
(休日/月7日、有給あり、賞与年2回、社保完備)

### 【葬祭献茶スタッフ】

時給 1,000円～1,200円(研修期間有り)  
セレモニ一における会館でのお飲み物のお配りや、式場のご案内など接客が主な仕事です。



スマホから  
単体応募

## まずはお電話を!!

募集に関するお問い合わせは  
**0897-35-1110**  
担当 戸田

## お問い合わせ 資料請求

フリーダイヤル  
**0120-44-5880**  
365日24時間対応しております。

お急ぎの方は  
電話にて  
対応いたします。

【通話無料】携帯電話でもつながります。  
ドリーマーご自宅出張  
無料事前相談実施中!!

◆ドリーマーではご葬儀前に必ず全てのお見積もりをお客様に提示いたします。  
◆ご予算に合わない場合は、予算に合わせて内容の変更が可能です。  
◆その後、想定外の費用が発生する事はございません。

ドリーマーの  
葬儀費用